新板
絵入

世間子息気質

四

へ遠13
1663
4

1663
4

金甚

世留子息乳贄巻之四

同禄

女帝乃嘘之法紀縄之大呂歌氣

素鄰之三樫豆毎日乃三粒喪の間乃八度和尾

礼殿之貴わざ乃稜れ物奉加帳

伯りの法とろろ山芋あげろ疱瘡乃呪

饗庭文庫

まるが智恵を上て箱入乃根付形氣

関流れの夫婦の中に言乃ひ材木屋

男ふかく協乃巣を仕合乃揚相

欲乃深い井戸茶碗切り形乃具ね

欲ゆへ禍を身より引寄る虎落形家

儀乃根を高貴と骨とおり出さ木綿屋

表面を欲ゆへ切くれ乃る関後乃亀髪

偽りれわるよと死人乃高潔

第一 女郎乃書をよつさ母乃大臣形家

氷をあるの出く水ようつめ大亀乃嘴八女郎よ与ろく

女郎ろ亀を尾をんを。毎日れ三弥毎ひる石瓦ろ沼よ蔚ろと白

根岡の義七との夫婦。よ八親ねうる身れ仕合ちも関係と

こしの上ろ若い三浦乃港ひ来と母よ入ま自惚樺の女郎よとの

きあれ。分量の事知とろつく代大臣八いひまりよ廣ましたま

拾ものでまきれ。ものろがらみ。くくちろ家中ろ付ろねえん

ちやと義ひうみ。母ろね毛穴をもつきろ八。今れ金盥いぞろの椀

ふぐくものわしと。ものろ異乃高ものき幸金竜ひを下わるれ。八十表

まつ一つま仔樂屋久乃ものねを。ろく方自宅の遊びこかく

色里八沼戸も駿河もお判まひ八おろ一かと白よかまへ一たま勝ち

金九郎はつくまうしまうしまこそ
来にけりと。石野九郎左衛門
清はまうしつくに右の脇の
を敷をとりどりに
かくりよに差寄りけるに
人とがるひとりに業せんさく
親父がむつかしい新しく
ねとがなり。毎日ひまよ
ちりつく。ぎんの女房ふるあじと
人をなどお情をあつらえ
もろくの事社九郎左衛門の
しとろ八郎殊天物のよむ

をもつげ長あるとめづらしい近
来人のぐことおそよ入りく
迷あるこのやうに私くらまよ
かゆくそちらの迷長のまう
責仕のあつて舞ひあそ
実が入く面白くなれ二門つきあひ
癖をあつく嘘をつくのはよ
もどりめれ行いとつづ
ちりく。ほとおれの事をもつ
ゆる面猪まはれてからう牛
よいつの上青乃をかちく
や祇園師の方へ美つく

このなて見ろへ
常までなてちんで
背中とうてて今ひ面へ毎ひ男
さんのあんとなの清食とかうと代
お国のよれ出来ぬちいうとて。そまか
ひとがるひとりに業せんさくとろかと。偽ふりくかうあひ仕事もこ
新しくて美人とうとをんてうべて。女房れ方をとてふとういい
毎日ひまよ迷ひ郎くに睡をなりし清よ。仏あつひ嘘をつき
ぎんの女房ふるあじとれよあつまとるとゆくいくうつ
人をなどお情をあつうもと自慢くしい嘘をとくわめ
ちろくの事社九郎左衛門のまんせうく事をんくとうそれと後をや
しとろ八郎殊天物のよむくに奥殊れあつんをもんで猪れいき

ねんごろに法華の法華の法わけ侯ーとの仰せ侯合の
ことを煙草入れ煙草入れで法華経を
自然法華の力より多くせもやく長者の家やどの者ども
が悔ずわるねと言ふ。爾七ツ出る今八ツ也乃商ひ世帯まわり祝ー人を
さぐる世親者ん法華ふく。金銀入ーめた佛の事が世話をさこふ
てゆるる程よ。ゆるるよりさと行られぬ。ぐるぐるおりのく親元ゆ
奉加の事をきのんで大法師親れるを下ハ自分の入合のやるれ大寺れ事
ゆんどいれ情を出と人でけざる。酒屋を合帯のはれ者ち庵様で大焼義と
ちまで寄をつきれ言ふ人を産のあ者ちまでの。を新義ハ出所乃
異服をる親れ十二ツ志よあけ。まして分大をを白事ちく悔をを。
まつ。ふてる人ひがみる同よるるやるる焼義ハおるつと寄られ。ちら乃
親ゆ人行と寄をせられを人の同よかるる帯をとん。ゆ乃ん行ちるく

ど人ん事場乃氣のつゆ。しる者ゆ大焼義が出ちらべてゆ
氣ぐぼく事のを親よるるく人ゆ。ゆ出ちるく。真乃志
とり地ち。先元場われを合ーゆ。ゆれハ自邪所の矢乃ゆ
かれ者ハ代ゆ。ゆんの長者がゆ。ちの者ふひちわれ。を加せるをしる
ゆ親れ。ゆを世ゆ。ゆを行ゆ。ちゆ。ちとゆ。ちゆ。ふゆ乃ゆ。ゆれゆて
ゆ親ゆを世ゆを親ゆ。ゆれ。ゆ。今ゆ夜ゆ行ゆ。ゆ。ゆ行ゆ。ゆ
ゆ。ゆれ。ゆふゆ。ゆ長ゆ。ゆふゆの世ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
て。ゆ者ゆ。ゆ者ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
元場大松原を来て二ツ八乃藤ゆ者ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
上青乃事加の事永くと口ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
日蓮宗の他宗ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
大ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。

ぶつぶつ
うんぎなしとうる
よいよてこうそん
ごぶさいいたしまいのぶんをもつて
もてなしまいらせ

[illegible]七郎と伊勢町の七郎兵衛と[illegible]
[illegible]
[illegible]

てだうまとう陰陽師がれとうとと病気の物まねとて鱈の
鍋とやくわとの月ごろの世間の物ようなつくとそれまでこのやちと
同じあきやうまつくいきまで人はいとと形をせちて手中嘘
とまをいつまでもそれもうつくと魔ほうまわまひくんの知くチうたと
きやうそ方ろれ弁せとそ名類者ゑるりくと堂事ようてせり

第二　まつの新恵ようて箱入の銀拵形氣

技業貧乏の大濃人れいをそ家ありくそれ往の世と浮る雑俵橋より
死ぬまでそれ百家教ゑ形の間水麗とちうべん寄うれ表義頭よ
うりく。裏ちくう雪乃瞬うとあるまと寄なるの御代のそあ〜松ふ
吉月くふ年名ゆ雪ようそひ。ちらをちくれ関さ鯛ろ演をを
小借屋建つくさそれくう乃家繕して朔夕れ燈こそろ。寄ふ長
暗乃ちれ乃とを来ふ本堂ふれ枝まと落くく抓丸のある海ふ

まれをとうのこみ。大坂角乃ちうく三十余人れを代を抱をれまふ
うけれ海ひろく仕合ようつくまう所村の実恵ふ移ひれまをうれ
海とれ弁根づあを楠分浪商ひの軍法若世弟れうけりねけれう乃
ちひ親又ちれいちあうけくこ三人持ーそたう新恵をあうくそい
づまぬそ商人をとあうり当市れ料ちをそ拾う庶ようをそ名を立
ひ家をうぐをんとれうまをれ弁代乃かこうねまう。長町の下屋敷三
人れをそをひとを恵ぐ〜商人の目釈ようをぐう万事ふをこをけ。
をとけう事を考出ぐれ新ちうれ。武代屋敷乃亭あうう西南の野を
ん上をを中れ。事のらうべき往をそれ出せう海ふ三人亭れ乃そて出ち来
らい事ようめえ新家乃改元とをぐあ。達新家紋をあ〜ひ恵ちうべと
ひ上を世べまをサちう下れ二兄牙親乃御亭をとうけく亭こあうう
西南の野を恵となるあ三人一所ふ屋敷あうそれ出ちくまりまをと

紙をとりて上に和歌をうれしく先無量千命がんの[illegible]
[illegible]ひとへむしろをしき唐稚の相をとるふ面れ方へ[illegible]
わるれりもしかの[illegible]米雲の考て[illegible]偽ら風年ふさいまんの濱の
米問屋とわ後ちく。人をもつて狂雲をもかすかに[illegible]
上女六男孫九つ[illegible]尺そ[illegible]
[illegible]やけもつて尺くく。百姓元富中に[illegible]
四人長富渥ひ人ろうちよりいきくせ[illegible]
脇をつのくたる時ぶり出しをちく[illegible]
才一とあるうち。な今れ人ろぬうの[illegible]
智よりあ[illegible]合紙をねをうう。ちさ乃ろ合面[illegible]
燈びう押絵紙人色紙をとかいさば。を用ふ石の茶碗将軍
家の給弁人乃年。祖師乃墨蹟わるまくさものあてう。紙あり年

[illegible]
[illegible]
[illegible]

勝ハ国の[illegible]をうしなひ敗よりハ[illegible]
[illegible]をうけつ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

第三 親田人より猶八郎まで御ゝ虎蔵成敗

人を正直とおもうて分を働き商ふ情を出せば、あの〳〵大神の
恵まあらう。仕合ハ欲つけ神仏や侍衆の為様とかの前あがいたん
様ゝ者ゝくらべ、ハ年ゝ所ゝの衰稲ゝ。さらう位ゝて万度勤九郎
と人ゝ丸ゝ者ゝ長ハ本銀切を責ゝ有ゝ者ゝ軽ゝ仕ゝ
ゝ丸ゝ踏ゝて責ゝ者ゝ推ゝ者ゝ。それを分一代ゝ仕ゝ
ゝ俵ゝ張ゝ。ゝ通所ゝ大度ゝ者ゝ。ゝ母ゝ
ゝ者ゝ。ゝ者ゝ。ゝ勤ゝ動ゝ初ゝ親ゝ者ゝ
ゝ者ゝ。ゝ者ゝ。ゝ者ゝ。ゝ者ゝ。ゝ者ゝ
ゝ者ゝ。ゝ者ゝ。ゝ者ゝ。ゝ者ゝ。ゝ者ゝ
ゝ者ゝ。ゝ者ゝ。ゝ者ゝ。ゝ者ゝ。ゝ者ゝ
ゝ者ゝ。ゝ者ゝ。ゝ者ゝ。ゝ者ゝ。ゝ者ゝ

より。商ゝ者ゝ仕ゝ者ゝ三野ゝ者ゝ。ゝ者ゝ。ゝ者ゝ
ゝ者ゝ。ゝ者ゝ。ゝ者ゝ。ゝ者ゝ。ゝ者ゝ
ゝ者ゝ。ゝ者ゝ。ゝ者ゝ。ゝ者ゝ。ゝ者ゝ
ゝ者ゝ。ゝ者ゝ。ゝ者ゝ。ゝ者ゝ。ゝ者ゝ
ゝ者ゝ。ゝ者ゝ。ゝ者ゝ。ゝ者ゝ。ゝ者ゝ
ゝ者ゝ。ゝ者ゝ。ゝ者ゝ。ゝ者ゝ。ゝ者ゝ
ゝ者ゝ。ゝ者ゝ。ゝ者ゝ。ゝ者ゝ。ゝ者ゝ
ゝ者ゝ。ゝ者ゝ。ゝ者ゝ。ゝ者ゝ。ゝ者ゝ
ゝ者ゝ。ゝ者ゝ。ゝ者ゝ。ゝ者ゝ。ゝ者ゝ
ゝ者ゝ。ゝ者ゝ。ゝ者ゝ。ゝ者ゝ。ゝ者ゝ

てもきゝあく。強よ身をくゝとわさはん人丈命。もはかの事とのさとう者。
のこれてそ老母はるばるさひてとるこゝと。世あを望まれ訓導なれ大きの一人も
あく。まづ生命の関り実人々けあるまつ。もはあたうれ世れ中一さびはかりあり
よさとまつる。ゆげさてうてあよ会仏の一ながをとやひとのねのとをう母
関家をまづさあまづさとれよ押ゝ色屏風一まつ〜物をあげ寺人四つ脈搏
小紙を書中母の女へ紙帳をを強すぐ扉をひとくあ糸われはをづまつ
ゝ今ゝ一而よ動を関書をあまれ動を命七をふるれゝふ屋をれ肩衣に
裏付絞のをさあを勝ゝを悪せ。自分撫よ抱てみちんもこのどくあゝ
新ゝゝ。産あれ真中して動をゝとあゝ一番今青の信解とゝてゝゝわの
新産をとゝゝれれゝれ行ふ姫ゝゝ思ゝとをゝるゝゝを良ゝてわゝとゝゝ
ゝとんまゝけ者ふを身動水滅をゝ拭てをゝこびをそををゝ人をを
ハゝ動面ゝゝれてまゝあゝを。見きや人死るれををを節目ををゝ

ゝをゝ。絞ゝてゝをゝゝんぜひゝゝ紙人と申ゝ
てゝれゝをゝハ動七船をゝ出ゝを方をまゝ。ゝ一七月乃秋ひとゝふ
動九ゝゝ年ゝあひ。今ゝの動面ゝ帝公儀ゝ所ゝゝゝゝゝゝ
一猫所の宿をゝとゝゝれ。十をれゝゝをゝゝゝゝゝゝゝゝ
なをゝ。ゝわゝ目ゝんでゝをゝゝ動ゝゝゝ物ゝゝれゝゝゝゝ
ゝ。ゝ屋ゝまゝかゝゝゝ動来ゝゝゝをゝ先報ゝ好屋ゝゝゝ教ゝ
ひゝゝを猫ゝ来ゝひゝゝゝとゝのひゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
如ゝひゝゝゝゝゝゝ奥ゝゝゝゝゝ夜ゝゝゝを行ゝゝゝゝゝ
ゝのゝゝゝゝゝゝゝ集ゝ姫人ゝ川の出ゝ押ゝ強ゝひゝとゝゝゝの
ゝをゝゝゝ奥ゝゝ姫ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

理さえ弁へて身の分を動セ動かへたがひ事なあげく新ごとう
わざこうさ言さうぐ言同行仲私さえ言づまり申びせんさくに拙者そも
高孝。乗人言さまもうけを賭遠乃流を書かに流ものくさかさ
外所もあるかがと考母まの大ごめ名れ大動セさ入どのの物
うさ事ふ。今言れ信解を推り大指でさ言うさのいわまか
ひとと。猛指ひとりまと動外ぬ行おまうとくさ人せんとつ答と
てうふ同行も拙ひこ言まと言ゑ我こ人日法のの〜みよまの体法て
て任辞〜と異出。郭と湯と一扱うきっと吹とふ数と先こ嘉出そ
やと薪生こうと水をは酒と動九〜国とも〜ねもも気ぐうさ言ゑう
永ぐらとう義とんうとあ拙乃まの任八大勢を言さ言ぐもく行事セミ
陸ゑて肝を清〜。まず動あ言ぐこ言のうと言義ゑ言ゑ言言ゑ偽め
あうの言、かと動言ゑ言を例ゑ嘘て無出けっこて勝を扱うくんへ食我の

編ゑ言〜あまこまこまこ言ゑ言ゑ言言言

あるときこうく懺悔のさをかとぐ〜ぐ〜はぐ〜親ぎんをぐ
ひ賊寶も黄泉ひ龍乃輪よあ〜び今ゆ死〜うるん
ふたりく。有報三百典周祠堂報よ入く。常念佛を祝
建ぎ毎ゆ稼ゆゆもよのちたん世乃稼ぐひ。和来乃都よう
ゆ山乃ほゆよ。席祝むゆびく

あこるひさあ〜けゆ

世間臭ゆ氣餓衆之ひ経